

当PDF文書は上に示されている企業に関する詳細レポートのアップデート版として作成されたものです。
 詳細レポート全体につきましては[弊社ウェブサイト](#)をご覧ください。

2019年8月9日、Jトラスト株式会社は2019年12月期第1四半期決算を発表した。

四半期業績推移 (累計) (百万円)	19年3月期				19年12月期			19年12月期	
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	(進捗率)	通期会予
営業収益	17,388	36,575	55,173	74,935	18,279			28.4%	64,397
前年比	1.3%	5.6%	-3.1%	0.8%	5.1%				-
販管費	6,359	13,135	20,717	28,488	7,211				
前年比	8.3%	10.6%	17.4%	18.1%	13.4%				
営業収益販管費比率	36.6%	35.9%	37.5%	38.0%	39.4%				
営業利益	807	25	-29,770	-32,600	481			788.5%	61
前年比	-70.9%	-99.5%	-	-	-40.4%				-
営業利益率	4.6%	0.1%	-	-	2.6%				0.1%
税引前利益	1,944	1,160	-28,681	-31,135	152				
前年比	-21.5%	-71.4%	-	-	-92.2%				
税引前利益率	11.2%	3.2%	-	-	0.8%				
親会社の所有者に帰属する四半期利益	1,493	-2,182	-32,770	-36,107	-160			-	-1,118
前年比	-16.1%	-	-	-	-				-
四半期利益率	8.6%	-	-	-	-				-

四半期業績推移 (四半期) (百万円)	19年3月期				19年12月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
営業収益	17,388	19,187	18,598	19,762	18,279		
前年比	1.3%	9.8%	-16.7%	13.8%	5.1%		
販管費	6,359	6,776	7,582	7,771	7,211		
前年比	8.3%	12.9%	31.2%	19.9%	13.4%		
営業収益販管費比率	36.6%	35.3%	40.8%	39.3%	39.4%		
営業利益又は営業損失	807	-782	-29,795	-2,830	481		
前年比	-70.9%	-	-	-	-40.4%		
営業利益率	4.6%	-	-	-	2.6%		
税引前利益	1,944	-784	-29,841	-2,454	152		
前年比	-21.5%	-	-	-	-92.2%		
税引前利益率	11.2%	-	-	-	0.8%		
親会社の所有者に帰属する四半期利益	1,493	-3,675	-30,588	-3,337	-160		
前年比	-16.1%	-	-	-	-		
四半期利益率	8.6%	-	-	-	-		

出所：会社データよりSR社作成

*2019年3月期第2四半期には、ハイライツ・エンタテインメント株式会社の株式及び貸付債権の譲渡を決議した。そのため、当該事業について非継続事業として分類し、それに伴い、比較年度の「営業収益」、「営業利益」及び「税引前利益」については、非継続事業を差し引いた継続事業から生じた金額を表示している。

*同社は、2019年6月に決算期を4月から翌3月までから1月から12月までに変更した。これにより、2019年12月期は、決算期変更の経過期間となり、9ヶ月間（2019年4-12月）を対象とした変則決算となる。

セグメント別業績（四半期累計）

四半期累計 (百万円)	19年3月期				19年12月期		
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q
営業収益	17,388	36,575	55,173	74,935	18,279		
前年比	1.3%	5.6%	-3.1%	0.8%	5.1%		
日本金融事業	2,370	4,854	7,316	10,554	2,345		
前年比	3.4%	-1.7%	3.9%	16.9%	-1.1%		
韓国及びモンゴル金融事業	10,172	20,234	30,160	39,515	9,777		
前年比	15.4%	16.0%	12.6%	10.2%	-3.9%		
東南アジア金融事業	3,139	6,261	9,436	13,025	2,726		
前年比	-12.6%	-14.1%	-10.8%	-4.1%	-13.2%		
総合エンターテインメント事業	5	547	949	1,520	1,712		
前年比	-	-	-	-	-		
不動産事業	1,199	2,566	4,119	6,440	1,334		
前年比	-21.4%	-8.0%	0.8%	-6.8%	11.3%		
投資事業	322	550	788	1,036	272		
前年比	-44.5%	-50.6%	-88.8%	-85.8%	-15.5%		
営業利益	808	25	-29,770	-32,600	481		
前年比	-70.9%	-99.5%	-	-	-40.5%		
利益率	4.6%	0.1%	-	-	2.6%		
日本金融事業	970	2,151	3,298	4,251	1,078		
前年比	-13.5%	-13.5%	-5.6%	2.0%	11.1%		
利益率	40.9%	44.3%	45.1%	40.3%	46.0%		
韓国及びモンゴル金融事業	1,458	2,400	4,002	4,880	2,548		
前年比	-11.5%	-2.0%	29.2%	37.3%	74.8%		
利益率	14.3%	11.9%	13.3%	12.3%	26.1%		
東南アジア金融事業	-783	-2,418	-14,308	-17,712	-1,889		
前年比	-	-	-	-	-		
利益率	-	-	-	-	-		
総合エンターテインメント事業	-13	3	-2	-15	39		
前年比	-	-	-	-	-		
利益率	-	0.5%	-	-	2.3%		
不動産事業	11	41	22	91	-21		
前年比	-88.2%	-72.5%	-89.9%	-86.2%	-		
利益率	0.9%	1.6%	0.5%	1.4%	-		
投資事業	186	-291	-20,082	-20,568	-510		
前年比	-36.9%	-	-	-	-		
利益率	57.8%	-	-	-	-		

出所：会社データよりSR社作成

*2019年3月期第2四半期において、ハイライツ・エンターテインメント株式会社の総合エンターテインメント事業（遊技機並びに遊技機の周辺機器に関するコンピュータシステム等の開発・製造・販売業務）を非継続事業に分類した。それに伴い、比較年度の「営業収益」及び「営業利益」については、非継続事業を差し引いた継続事業から生じた金額を表示している。

*同社は、2019年6月に決算期を4月から翌3月までから1月から12月までに変更した。これにより、2019年12月期は、決算期変更の経過期間となり、9ヶ月間（2019年4-12月）を対象とした変則決算となる。

セグメント別業績（四半期）

四半期 (百万円)	19年3月期				19年12月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
営業収益	17,388	19,187	18,598	19,762	18,279		
前年比	1.3%	9.8%	-16.7%	13.8%	5.1%		
日本金融事業	2,370	2,484	2,462	3,238	2,345		
前年比	3.4%	-6.0%	16.9%	63.1%	-1.1%		
韓国及びモンゴル金融事業	10,172	10,062	9,926	9,355	9,777		
前年比	15.4%	16.7%	6.1%	3.2%	-3.9%		
東南アジア金融事業	3,139	3,122	3,175	3,589	2,726		
前年比	-12.6%	-15.6%	-3.6%	19.8%	-13.2%		
総合エンターテインメント事業	5	542	402	571	1,712		
前年比	-	-	-	-	-		
不動産事業	1,199	1,367	1,553	2,321	1,334		
前年比	-21.4%	8.2%	19.8%	-17.8%	11.3%		
投資事業	322	228	238	248	272		
前年比	-44.5%	-57.3%	-96.0%	-4.6%	-15.5%		
営業利益	808	-783	-29,795	-2,830	481		
前年比	-70.9%	-	-	-	-40.5%		
利益率	4.6%	-	-	-	2.6%		
日本金融事業	970	1,181	1,147	953	1,078		
前年比	-13.5%	-13.6%	13.9%	41.8%	11.1%		
利益率	40.9%	47.5%	46.6%	29.4%	46.0%		
韓国及びモンゴル金融事業	1,458	942	1,602	878	2,548		
前年比	-11.5%	17.5%	147.2%	91.7%	74.8%		
利益率	14.3%	9.4%	16.1%	9.4%	26.1%		
東南アジア金融事業	-783	-1,635	-11,890	-3,404	-1,889		
前年比	-	-	-	-	-		
利益率	-	-	-	-	-		
総合エンターテインメント事業	-13	16	-5	-13	39		
前年比	-	-	-	-	-		
利益率	-	-	-	-	-		
不動産事業	11	30	-19	69	-21		
前年比	-88.2%	-46.4%	-	-84.4%	-290.9%		
利益率	0.9%	2.2%	-	3.0%	-		
投資事業	186	-477	-19,791	-486	-510		
前年比	-36.9%	-	-	-	-374.2%		
利益率	57.8%	-	-	-	-		

出所：会社データよりSR社作成

*2019年3月期第2四半期において、ハイライツ・エンターテインメント株式会社の総合エンターテインメント事業（遊技機並びに遊技機の周辺機器に関するコンピュータシステム等の開発・製造・販売業務）を非継続事業に分類した。

*同社は、2019年6月に決算期を4月から翌3月までから1月から12月までに変更した。これにより、2019年12月期は、決算期変更の経過期間となり、9ヶ月間（2019年4-12月）を対象とした変則決算となる。

2019年12月期第1四半期実績

営業収益は18,279百万円（前年同期比5.1%増）となった。増加要因は、Jトラストオリンピンド（JTO）の新規連結により利息収益が増加したほか、総合エンターテインメント事業において、KeyProduction、allfuz、フォーリンラーズ他の新規連結により役務収益が増加したことによる。一方、減少要因は、韓国の貯蓄銀行で中金利商品を中心とする個人向け貸付の増加が期中平均貸出金利を低下させ利息収益が減少したほか、Jトラストインドネシアにおいて銀行貸出金残高が減少したため利息収益が減少したことによる。増加要因が減少要因を上回り増収となった。

利益面では、営業利益は481百万円（前年同期比40.4%減）となった。営業費用および販管費及び一般管理費の増加によって減益となった。税引前利益は152百万円（同92.2%減）、親会社の所有者に帰属する四半期損失は160百万円（前年同期は1,493百万円の親会社の所有者に帰属する四半期利益）となった。税引前利益の以下の各損益段階では、営業利益の減益に加え、前年同期は為替差益1,132百万円を計上したが当第1四半期は為替差損191百万円を計上したことが減益要因となった。

同社は、2019年6月に決算期を4月から翌3月までから1月から12月までに変更した。これにより、2019年12月期は、決算期変更の経過期間となり、9ヶ月間（2019年4-12月）を対象とした変則決算となる。

2019年3月期第2四半期において、ハイライツ・エンタテインメント株式会社の総合エンターテインメント事業（遊技機並びに遊技機の周辺機器に関するコンピュータシステム等の開発・製造・販売業務）を非継続事業に分類した。

セグメントの業績は次の通りである。

日本金融事業

営業収益は2,345百万円（前年同期比1.1%減）、セグメント利益は1,078百万円（同11.1%増）となった。営業収益は、前年同期並みを確保した。アパートローン保証の貸出実行減少により手数料収益や買取債権の将来キャッシュフローの見直しに伴う簿価修正益が減少したが、信用保証残高の増加に伴い安定的な保証料収益を計上できたうえに債権回収における利息収益が堅調に推移した。利益面では、買取債権の将来キャッシュフローの見直しに伴い貸倒引当金の繰入れが減少したため、セグメント利益が増益となった。

信用保証事業

信用保証業務については日本保証が行っている。同事業における収益のベースとなる債務保証残高の合計は208,922百万円（前年同期比30.8%増）、無担保貸付に対する保証は18,055百万円（同4.6%増）、有担保貸付に対する保証は190,866百万円（同34.0%増）となった。

債権回収事業

国内の債権回収業務については、主に日本保証、パルティール債権回収株式会社が行っている。買取債権残高は14,676百万円（前年同期比10.7%増）となった。

韓国及びモンゴル金融事業

営業収益は9,777百万円（前年同期比3.9%減）、セグメント利益は2,548百万円（同74.8%増）となった。営業収益は、規制強化により貯蓄銀行における貸出金残高が伸び悩んだうえに、中金利商品を中心とする個人向貸付の増加により期中平均貸出金利が低下したことにより利息収益が減少した。利益面では、貯蓄銀行における債権回収実績率の見直しに伴い貸倒引当金繰入額が減少したため増益となった。

債権回収業務

債権回収業務は、TA資産管理貸付株式会社がNPL債権（不良債権）の買取及び回収業務を行っている。買取債権残高は3,144百万円（前年同期比27.4%増）となった。

東南アジア金融事業

営業収益は2,726百万円（前年同期比13.2%減）、セグメント損失は1,889百万円（前年同期は783百万円のセグメント損失）となった。Jトラスト銀行インドネシアにおいて、不良債権の一括処理で貸出金が減少したことに伴い利息収益が減少し、減収となった。損益面では、Jトラスト銀行インドネシアにおいて、フォークローズドアセット評価損（差し押さえ担保資産の評価損）を計上したことや新たに連結取り込みを行なったJTOが損失となったこと等により、セグメント損失の計上となった。

銀行業務

インドネシアにおいて、PT Bank JTrust Indonesia Tbk.（以下、Jトラスト銀行インドネシア）が銀行業務を行っている。銀行業における貸出金は、53,794百万円（前年同期比42.3%減）となった。

債権回収業務

インドネシアにおいて、PT JTRUST INVESTMENTS INDONESIAが債権回収業務を行っている。買取債権残高は22,080百万円（前年同期は849百万円）となった。

総合エンターテインメント事業

株式会社allfuzが広告企画開発業務を、株式会社KeyStudioがライブ・エンターテインメント業務を、株式会社KeyProduceおよびフリーランラージ株式会社がテレビ番組制作業務を、株式会社FA Projectがエンターテインメント・コンテンツの企画・開発・政策業務を、株式会社SKEが芸能プロダクション運営業務を行っている。営業収益は1,712百万円（前年同期は5百万円）、セグメント利益は39百万円（前年同期は13百万円のセグメント損失）となった。

不動産事業

営業収益は1,334百万円（前年同期比11.3%増）、セグメント損失は21百万円（前年同期は11百万円のセグメント利益）となった。不動産事業については、主にキーノート株式会社が、不動産アセット業務については株式会社KeyHolderが行っている。営業収益は前年同期比で堅調だった。利益面では販売用不動産の仕入抑制を行ったため、セグメント損失を計上した。

投資事業

営業収益は272百万円（前年同期比15.5%減）、セグメント損失は510百万円（前年同期は186百万円のセグメント利益）となった。主にJトラストアジアが投資事業及び投資先の経営支援を行っている。損益面では、現在係争中のJトラストアジアに関する訴訟関連費用の増加により販売費および一般管理費が増加したため、セグメント損失の計上となった。

このリサーチメモは、掲載企業の[最新版レポート](#)にも掲載されています。

株式会社シェアードリサーチは今までにない画期的な形で日本企業の基本データや分析レポートのプラットフォーム提供を目指しています。さらに、徹底した分析のもとに顧客企業のレポートを掲載し随時更新しています。

ディスクレーム

本レポートは、情報提供のみを目的としております。投資に関する意見や判断を提供するものでも、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。SR Inc.は、本レポートに記載されたデータの信憑性や解釈については、明示された場合と黙示の場合の両方につき、一切の保証を行わないものとします。SR Inc.は本レポートの使用により発生した損害について一切の責任を負いません。

本レポートの著作権、ならびに本レポートとその他Shared Researchレポートの派生品の作成および利用についての権利は、SR Inc.に帰属します。本レポートは、個人目的の使用においては複製および修正が許されていますが、配布・転送その他の利用は本レポートの著作権侵害に該当し、固く禁じられています。SR Inc.の役員および従業員は、SR Inc.の調査レポートで対象としている企業の発行する有価証券に関して何らかの取引を行っており、または将来行う可能性があります。そのため、SR Inc.の役員および従業員は、該当企業に対し、本レポートの客観性に影響を与える利害を有する可能性があることにご留意ください。

金融商品取引法に基づく表示

本レポートの対象となる企業への投資または同企業が発行する有価証券への投資についての判断につながる意見が本レポートに含まれている場合、その意見は、同企業からSR Inc.への対価の支払と引き換えに盛り込まれたものであるか、同企業とSR Inc.の間に存在する当該対価の受け取りについての約束に基づいたものです。

連絡先

株式会社シェアードリサーチ / Shared Research Inc.
東京都文京区千駄木3-31-12
HP: <https://sharedresearch.jp>
TEL : (03)5834-8787
Email: info@sharedresearch.jp